

2008年

8月27日（水曜日） - 住民のタネの力 -

「道路ふれあい月間」が8月の1ヶ月間、道路を常に安全に、広く美しく利用する機運を高めることを目的に国土交通省が中心になり昭和33年から毎年実施されている。この月間行事として道路交通の安全又は美化等に功績のあった民間の団体・個人に対して"国土交通大臣表彰"が授与されますが、本年は、本市の「奥大野村づくり委員会」（代表：安田委員長）が長年のご活動を高く評価され、見事、本日受賞されました。昨年も本市の「かけつグリーンサークル」（代表：尾江掛津区長）が同様に受賞されています。この大臣表彰は、広く全国各地の団体・個人から選定されるもので、本年は全国88の団体・個人に対して、昨年は91の団体・個人に対してそれぞれ授与されており、各都道府県単位でいえば毎年平均1～2対象にすぎないのに、2年連続で同一の市の団体が受賞されたことは全国的にも珍しく、当市としてもとても晴れがましく心からお祝いを申し上げます。

奥大野村づくり委員会の皆さんは道路沿いに「花の道」としてプランター設置や空き缶拾い等の活動を重ねられ、また、かけつグリーンサークルの皆さんも花のプランター設置、植樹、除草等の活動を続けられ、ともに当市沿道の美しく豊かで快適な環境づくりに尽くしていただいております、両団体の皆さんに対して何より衷心からの敬意と感謝を申し上げます。

ところで、共通して「花」を活用した取組みをされているわけですが、つらつら思いますに、花は理屈抜きに美しいものですが、元はといえば「種」（タネ）から出たものです。では、小さな種の中にあの花の体がまるごと隠れていたのかというと、そうであるはずもなく、ある意味で種は花の体を創るいわば"きっかけ"にしすぎません。ただ、それは素晴らしいとしかいえない神秘的な機能を持ち、花体を構成するための土中にある成分を種の機能で引き寄せて、地上に見事に紡ぎあげた。あの色とりどりの花々は、種がちぎり絵のように土中からくみ上げただけで、実は、全部、土の中にあっただけです。勿論、花だけでなく果実も植物も全てそうなのですが、一見、ただの何事もない土塊（つちくれ）の中に美しい宝の実体が全て隠れていて、タネが土中の美、宝を地上に掘り出してくれている、と思うだけで、何気ない日常の中に不思議が一杯詰まっているような靈妙な幸福感が湧き出てきます。

このように「花」はこれからの地域振興の象徴です。これからの地域の活性化のためには、あたかも花の種が土中で自ら行うように、これまで見過ごしがちだったごく普段の足元の地域環境の中から恵みや宝となるものを探り当て、引き寄せて、色とりどりの魅力に溢れる地域の花々へと紡ぎあげていく、そんないわば「タネの力」が欠かせません。今回の奥大野村づくり委員会やかけつグリーンサークルの皆さんのご活動は、まさ

に文字通り地域振興のための住民の皆さんの素晴らしいタネの力の一つの象徴であり、このようなご活動を生きた範として、今後ますます、本市の未来の希望の花々をしっかりと育てていくため、魅力豊富な「タネの力」の開拓に市民の皆さんとともに広く各分野で努めていきたい。